

【教育実践報告】

農学部公認課外活動団体について

関川清広¹・南 佳典¹・井上広大¹・勝又美紀²

はじめに

農学部では、農場太鼓、園芸班、生産加工班の3団体が、学部公認のもと課外活動を行っている。それぞれの活動に興味を持つ学生たちが参加し、授業時間外や休暇期間中に計画的に活動するほか、収穫祭などの学内行事や、地域のお祭りなどにも貢献している。これらの団体の活動を、農学部における教育実践記録として残し、今後の教育活動の参考とするため、本紀要への掲載を計画し、以下の通り報告する。

農場太鼓

日本の古来より行われてきた農産物の収穫を祝う祭祀行事が収穫祭である。玉川大学農学部でも収穫を祝い、学部の研究などの活動を発表する場として収穫祭が開催されている。昭和40年代の収穫祭の開会式で神楽を奉納したという記録があり、それが農場太鼓の始まりであるといわれている。

その後は、餅つきの横で立台に載せた長胴太鼓を両面からたたき「農場」、玉川学園で広く演奏されている「玉川太鼓」の農学部版である「農玉」などの演目が加わった。現在、農場太鼓ではさまざまな演目が増え、8曲のレパートリーとなっている。

収穫祭での演奏をご覧になった近隣の方から、夏祭りでの演奏依頼が来るようになったのは20年近く前になる。現在、広袴夏祭りや、地元の玉川学園南口商店会夏祭りから演奏依頼をいただき、数曲の披露を行っている。

(南 佳典)

園芸班

農学部の農産研究センター (Center for Agricultural Research and Education: CARE) を担当する教員 (浅田真一、飛田有支) と技術指導員 (井上広大、山路利英、有山浩司) の幅広い指導体制のもと、広大な農場を活用

して、野菜、果樹、花卉など様々な作物の栽培や学内の美化装飾活動に勤しむ意欲的な有志学生の団体である。これまでの活動が評価され、平成29年度には農学部長賞を授賞した。

野菜栽培にあたっては学生が主体となって、作目や品種の選定から立案し、栽培計画を立て、個人あるいはグループで実行している。これにより、各自の体験したい野菜栽培を実践することができ、また、農業生産、園芸技術などを学ぶことができる。

花苗は、班員が交代で日々の灌水管理を行いながら生産してきた。これらの苗をプランターや花壇などに植栽し、学内の美化活動に寄与している。学内には季節に応じてプランターを配置しながら、適宜それらの管理も行っている。

(井上広大)

生産加工班

農学部の学内農場はもとより、北海道弟子屈農場や鹿児島南さつま久志農場で収穫された農作物も含めて、様々な生産物の加工を試みる団体である。玉川学園を代表する製品のひとつとなっているアイスクリーム各種のレシピ作成にも中心的な役割を担い、民放のニュース番組での紹介も記憶に新しい。オープンキャンパスやコスモス祭では、独自に試作したモナカアイスの配布に貢献するなど教員 (新本洋士、浅田真一) と技術指導員 (勝又美紀、植田敏允) の幅広い指導体制のもとで、高い評価を与えられる活動実績がある。

学生は、食品の加工を通して食品衛生や食品素材の特性、製造方法を学ぶため、大量一次処理、大量製造や個人およびグループで試作などに取り組んでいる。また、学園内の購買部、入試広報課、学友会、教師教育リサーチセンターなどと関わり、商品企画や商品提案を検討、製品化までの商品開発の一連の流れを実際に行っている。さらにK-12行事では、安心・安全に行事が行われ

¹ 玉川大学農学部環境農学科 東京都町田市玉川学園6-1-1

² 玉川大学農学部先端食農学科 東京都町田市玉川学園6-1-1

るよう衛生管理をサポートしている。

収穫祭では例年、来場者に2日間で約3000個のモナカアイス配布している。企画や製造を行うことによってモナカアイス製造技術を継承することができる。そして、

収穫祭における展示は、1年間の成果発表の場となり、資料作りやプレゼン、ディスプレイの仕方、お客様との接し方を学ぶことのできる良い機会となっている。

(勝又美紀)